kosei
生かされ、生きるチカラ。

伝統の京和菓子の味に、「人を大切に」の心を添えて。

京都教会　金澤一晃さん

四季の移ろいを色やかたちに表現する和菓子。金澤さんは26歳のときに京菓子司「鶴屋光信」を継いだ。こちらでは、江戸時代から続く京都の老舗・鶴屋吉信よりの暖簾分けを受け、近年では、オリジナル商品を開発し、カタログやインターネットによる販売にも力を入れている。伝統の京和菓子の味を守り続ける中で、「経営は人、物、金が大事といいますが、物も金も人が産みだし、その価値を決めるもの。人を大切にしなくては、商売は成り立たない」ということに気づき、その思いを心の原点として従業員と共に新たな和菓子づくりに取り組んでいる。

季節の行事に親しむ

わが国には、お花見や蛍狩り、紅葉狩りや酉の市など四季折々の風物をこぞって鑑賞し、さらにはそうした風物との出会いを詩歌に詠みこんで味わうという、季節や行事の豊かな楽しみ方があります。ことに仏教者には、目にした自然の営みをとおして無常を観じ、そこにあるがままの生き方を受けとめて詠んだ和歌や俳句が知られています。数例を挙げてみましょう。

「野辺の色も春の匂ひもおしなべて　心そめたる悟りにぞなる」（西行）。「うらを見せ　おもてを見せて　散るもみぢ」（良寛）。そして道元禅師は、「春は花　夏はほととぎす　秋は月　冬雪さえて冷しかりけり」と、端的に自然美とこの世の実相を示されています。

このような詩歌にふれると、季節ごとの行事や四季折々の風物は、すべて人と自然が織りなす「いのち」の営みとわかります。つまり、行事を楽しんだり自然を愛でたりするのは、そこに息づく「いのち」を味わい、慈しむことであり、それはまた、風物や行事をとおして説かれる神仏の声を聴かせていただくことでもあるのです。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp　Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615